

(仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案

意見聴取結果

■ 意見聴取の実施結果(概要)

(仮称) 第4期県立高校将来構想の策定にあたり、広く県民の意見を取り入れるため、パブリックコメント、説明会・意見交換会等を実施したもの。

名称	実施期間	実施回数等	意見数
パブリックコメント	令和7年11月25日 ～12月24日	意見提出者数：3人	10件
地区別高校在り方説明会	令和7年11月25日 ～ 12月21日	7圏域／7回 参加人数計：57人	63件
中学生意見聴取会	令和7年12月9日 ～ 12月16日	7圏域／8回 参加人数計：16人	77件
市町村長との意見交換会	令和7年12月18日 ～ 令和8年1月30日	県内34市町村長 (仙台市は別途調整)	—
産業界との意見交換	令和8年 1月16日 ～1月29日	農業、水産業、工業、建設業 (業界4団体)	—
合 计			150件

主な意見内容（一部）

○ 基本理念

パブリックコメント

学校の授業に民間企業を参加させる方針の様だが、高校の学習が、個人を伸ばす物でなく、企業の為の物に変わってしまわないか心配だ。

社会の変遷や科学の進歩で、高校で学ぶべき内容は増え続けているのに、未だに高校教育は義務化されず、年次も中・高で三年ずつのまま。

本当は一貫で 20歳まで学べるぐらいが理想のはず、成人年齢の引下げに加え、企業が必要とする授業内容だけを優先されたのでは、それ以外の人として必要な教養が、削られてしまうのではないか。企業教育と学校教育はきちんと分け、学校を企業の為に仕立てた若者を作る場にはしてほしくない。

在り方説明会

社会に出たときの厳しさや企業が求める能力とのギャップを埋めるような教育も検討してほしい。

⇒ 中間案該当部分

第3章 高校教育の創造的再構築に向けた考え方

1 基本理念

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 基本方針

在り方説明会

気仙沼地区でも通信制高校へのニーズが高まっていると感じる。また、部活動や学力を求めて、親元を離れ仙台の高校へ進学する生徒が増加しており、家計の負担も重くなっている。このような実態や私立・県外への流失を分析した上で、計画に反映されているのか。

中学生意見聴取会

将来の夢について考えるきっかけやイメージができるような教育の機会が欲しい。例えば、大学生や企業から話を聞くなど、早い段階から文理選択を含め将来に向けて目標を持つきっかけとなるような時間があればと思っている。

⇒ 中間案該当部分

第3章 高校教育の創造的再構築に向けた考え方

2 基本方針

(1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。

- オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。

(2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。

- 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 学校配置の考え方

地理的条件等に応じた教育環境の整備

在り方説明会

圏域を 7 圏域から 5 圏域に減らすことで、スクールバス依存や保護者送迎が必要となることを懸念している。

中学生意見聴取会

現在は、中学校に 30 分から 40 分かけて歩いて通学しているので、高校も 1 時間くらいであれば通える。

⇒ 中間案該当部分

第3章 高校教育の創造的再構築に向けた考え方

3 学校配置の考え方

(5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備

- 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。

■ 意見聴取の結果(概要)

- 県立高校教育の質の向上の方向性
多様なニーズに対応した教育の推進

パブリックコメント

「グローバル化」を掲げて、国際社会に通用する子供を… という事だが、その割に、日本人の子供の事しか考えていない様に見える。多くの外国人労働者は出稼ぎの様な形で帰る事を前提にされていて、子供と一緒に日本での暮らしをスタートできる環境が足りない。これでは本当の国際化とは言えないと思う。既に国際学校は幾つか有る様だが、アジア圏には対応が不足している。大崎日本語学校の様な取り組みを一步進め、海外から来た生徒がスムーズに学習を続けられる環境や制度を、(小中学校含めて) 整える必要があるのではないか。大人の都合でなく、生徒の「教育を受ける権利」を第一に、将来設計して頂きたい。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

(3) 多様なニーズに対応した教育の推進

- 生徒一人一人の学習状況や興味・関心、進路希望などの教育的ニーズを的確に把握し、それに応じた最適な学習環境を整備するため、個々の能力や特性に対応した教育課程を編成します。これにより、実社会で必要な知識や技能の習得を図り、将来の社会的自立に必要な判断力・表現力・協働力などの資質・能力を育みます。
- 生徒が持つ個性や能力などの様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供など、互いを尊重し協働できる環境を整備し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進します。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 県立高校教育の質の向上の方向性 教育DXの推進

パブリックコメント①

AI 活用を盛り込んでいるが、今起きているAI の問題を、全く考えていないのではないか…。

AI が酷い環境負荷を伴う技術で、温暖化を促進する事、AI の電力確保の為に、国や企業が原発を増設しようとしている事。高校の生徒は、納得した上で使うのか? (思想・信条の自由を侵害する恐れ)また海外の事例では、AI を使った学習で、生徒自身の能力は反対に落ちるという結果も出ている。

ネット上の嘘や差別的な考え方まで拾ってしまうAI は、人格に悪影響を与える危険性も指摘される。考える力を養わなければいけない 学校教育に、AI を「先生」の様に使うのは、良い事の様には 思えない。

パブリックコメント②

宮城県の公立高校はITC化が他県に比べてかなり遅れているので、もっとどしどしやるべき。また特に年寄りの先生方にも ITCが使えるような講習会を実施するなどして、普及させて欲しい。仙台東高校なんかは、なかなかITC化を取り入れた授業が進んでいるが、逆にナンバースクールは頭良すぎるがゆえに、旧態依然の授業をしてる先生が多い印象です。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

(4) 教育DXの推進

- 生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ICTやAI等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。
- 人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を越えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 時代のニーズに対応した高校の魅力化 普通科系の学び

パブリックコメント

高校教育費無償化が実施され、県立高校の定員割れ等、課題も多い事からの見直し案だと思います。他県、私立高校などからの差別化として、英語授業で国際感覚を身に付ける学科を何校かに設けては如何でしょうか？全校には無理でしょうが、アメリカンスクールの様に、日常会話から授業まで、登校から下校まで英語で学ぶクラスがあつたら良いと感じました。単独では無理であれば、観光、ビジネス、防災、電子等の専攻科目に取り入れても良いと思います。自身の英語力の無さから、英語授業が必要だと感じています。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

2 時代のニーズに対応した高校の魅力化

(1) 普通科系の学び

② 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方によらない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。

○ 地域や社会のニーズを的確にとらえ、特色ある分野をはじめ、企業や商工会、大学等と連携した学びを展開します。また、デジタル技術や英語等の語学力などの社会的ニーズにも対応したカリキュラムの導入などによる、実社会で活きる知識・技能を身に付ける実践的な学びの充実を図ります。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 時代のニーズに対応した高校の魅力化 専門学科系の学び

中学生意見聴取会

- ・東北大学のナノテラスのような、最先端の施設設備を高校生も使えたらしいなと思う。
- ・工業関係の会社員と話す機会があったり、入社後に実際に使う作業を体験できたりする学校だと良いと思う。
- ・以前テレビでドローンを使って農産物を移送している光景を見たことがあり、生産者と消費者双方にとって便利だと思った。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

2 時代のニーズに対応した高校の魅力化

(2) 専門学科系の学び

- ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 多様な学びの在り方

パブリックコメント

不登校児が全盛期になってしまってるので、新しい試みで i d e a | スクールを始めるのはいいけど、入試制度も点数や内申にこだわらず、人柄や意欲、シングルマザーの子も多いのでスクールバスなんかも検討して通いやすくするとか、不登校が常態化することに鑑み、zoomなどのオンライン授業なんかも検討して、通わないで済むような施策も検討して欲しい。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

(4) 教育DXの推進

- 登校に不安を抱えている生徒や、病気等により長期療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室と教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受けることや、オンデマンド配信を活用して学習を進めることなど、デジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組みます。

3 多様な学びの在り方

(2) 定時制・通信制の在り方

- 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備します。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 多様な学びの在り方 idealスクール

パブリックコメント

IDEALスクールという取り組みは 期待したいが、同時に、なぜ既存の高校が拒絶されてしまうのか、という事も、考えてほしい。IDEALスクールの成果を、他の高校にも反映する仕組みが欲しい。

在り方説明会

不登校の要因のひとつに、精神的理由が挙げられるため、学校への通いやすさという部分について検討願いたい。

中学生意見聴取会

自分の将来を考えながら時間割を作つて勉強できること、今やりたいことや、やらなければならない勉強を時間割に入れて重点的に学習できることが魅力的だと思う。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

3 多様な学びの在り方

(1) i d e a l スクール

- 生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の i d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。
- i d e a l スクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

パブリックコメント

郡部の進学校の石巻・気仙沼・古川・白石高校が定員割れが常態化してるので、定員をぐっと減らして、少数精銳にして都市部のナンバースクールに対抗ができるように、きめ細かい教育をしていくべき。宮城県は良くも悪くも仙台市一極集中になっているので、もっと郡部にも目を配った都市部では出来ない教育にシフトして欲しい。例えば特別支援学校みたいに先生を多めに配置したり、学習ボランティアみたいにして、低予算でも特別支援学校に負けない郡部ならではな教育をして欲しい。何でもかんでも仙台市を中心にし過ぎているように思う。

中学生意見聴取会

他校や海外の生徒とオンラインでつながり、考え方を共有したり比較したりして交流できる授業を受けてみたい。

⇒ 中間案該当部分

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

(1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等

- オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」）
- オンラインを活用した学校間の連携により、探究学習や専門高校における学びの成果の共有を図るなどの学習機会を提供することを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会の充実を図ります。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 持続可能な学校教育の推進 教育環境の充実

パブリックコメント

校舎の改築がナンバースクール以外進んでおらず、頭いい高校だけ差別的に取り扱っている。中堅校や底辺校も隨時建て替えを検討すべき。中学生が学校説明会に行って、○○高校はトイレが臭いと言うところを数高聞きます。いくら掃除しても、築が古くておしつこの刺激臭がこびりついているところも少なくないので検討すべき。特に仙台向山高校は場所柄高低差もあり、仙台市最古の校舎なので、早急に検討して欲しい。

⇒ 中間案該当部分

第5章 将来構想の推進

2 持続可能な学校教育の推進

(5) 教育環境の充実

- 生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実習施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。

■ 意見聴取の結果(概要)

○ 入学者選抜の在り方

パブリックコメント

入試制度について、現行の入試制度に関して、内申制度自体が女子優位に出来ており、男子が不利に働いている。もっと男子を公平な視点で評価するようなジャッジが出来る制度に変えるべき。

在り方説明会

「入学者選抜の在り方」について、例えば、全県一斉に実施しないとか、特色のある学校は日程を変えるなど、学校独自の入試があつても良いのではないか。

⇒ 中間案該当部分

第5章 将来構想の推進

3 入学者選抜の在り方

- 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。